



かぜをひくと、熱やせきが出たり、のどが痛くなるのはなぜ

かぜをひくのは

かぜの元になっているのは、空気中を飛び回っている、目に見えないウイルスや細菌という小さな生き物です。

ウイルスや細菌は、かぜをひいている人の口から出て、空気を伝わって、ほかの人の体に入ったり、ウイルスや細菌のついたものにさわった人の、手から口を通して、入ることもあります。

健康なときには、体が、ウイルスや細菌をおさえつけることができますが、体が弱っていて、体の抵抗力が弱くなっているときには、これをおさえることができず、ウイルスや細菌は体の中で増え続け、人間の体は病気になってしまうのです。そして、まだ、病気の軽い状態のときを、かぜといっています。

熱やせきが出たり、のどが痛くなるのは

ウイルスや細菌が、もし鼻で増えていけば鼻炎、気管支なら気管支炎、胃なら胃炎、腸なら腸炎という病気になりますが、かぜになったからといっても、体は、それぞれの場所で、それらと必死に戦っています。その結果、体温が上がり、熱が出ます。

のどでは、ウイルスなどが増えてくると、のどの神経がしげきされ、急に痛みだしますし、気管支では、何とかこれらをはき出そうと、せきをするのです。

つまり、かぜをひくと、熱やせきが出たり、のどが痛くなるのは、体のそれぞれの場所で、ウイルスや細菌と、体が戦っているからだということが出来ます。(監修・保志 宏)

